

平成20年度第2回 埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成20年10月23日(木) 午後2時～3時40分

◇ 会 場 埼玉県立熊谷図書館 集会室

◇ 出席者

(1) 委 員 鬼頭 宗範会長 樋口 邦利副会長 浅香 都子委員
高野 津代子委員 飯島 正治委員 岩田 隆委員
大井 むつみ委員 岡崎 勝世委員 若園 義彦委員
國島 徳正委員 小森 康行委員

(2) 図書館

【浦和図書館】

銭場館長 寺本副館長 加藤教育主幹 豊崎主席司書主幹

【熊谷図書館】

鈴木館長 橋本副館長 渡辺教育主幹

【久喜図書館】

小川館長 永作副館長 東城副館長 山成司書主幹

◇ 次 第

1 開 会 [熊谷図書館 渡辺教育主幹]

2 あいさつ 熊谷図書館 鈴木館長

3 会議の公開について議決

傍聴希望者が無い旨の報告

4 第1回会議録報告

5 会議録署名委員の指名

会長が若園委員及び國島委員を指名。了承される。

6 議 事

(1) 「市町村立図書館との連携協力に係わる提言」について

会 長：最終調整が終わったので「提言」を提出する。

(3館長を代表し、鈴木館長が受領)

(2) 「図書館と県民のつどい埼玉2008」について(報告)

[浦和図書館 豊崎主席司書主幹]

11月1日(土)に実施する「つどい」の分科会等の概要について、広報用ちらしに基づき説明。また、申込みの必要な分科会の申込受付状況を報告。

【質疑】

委 員：参加希望者が大勢いるのは結構だが、抽選しなくても済むようにもっと大きな会場が用意できないのか。

事務局：読み聞かせ講座は実技指導が中心であり、あまり大人数だと効果が薄れるので、適当な定員にしてある。これでも多いかもしれない。

委員：講師の立場からすると、広げた絵本が良く見える範囲に聴衆がいてくれないと困る。毎年抽選になるが、2年続けて落選した場合3年目は優先的に参加できるようにするなどの配慮ができないか。また、同じ講座を午前と午後の2回行うなどにより、定員を増やすことはできないか。

事務局：落選者への対応については、個人情報を持するのはあまり好ましくないが、適当な方法を考えてみたい。

委員：第1・第2両会場とも聞いてみたい内容だが、時間をずらすなどしてどちらにも参加できるようにならないか。

事務局：設定が難しい面がある。

委員：昨年の内容が良かったので、口コミで参加希望者が増えているように思える。

委員：他県に行くと「これはどんなイベントか」と聞かれることがある。注目度が高い催しだと感じている。

会長：静岡県で多くの参加者が集まる「大会」を行っている。また、図書館振興の観点から集会を行っている県もある。埼玉県でも、それらを参考にしながら是非続けて行って欲しい。委員の皆さんも参加されることを勧める。

(3) 全国図書館大会における本県の発表について（報告）

会長：今年度の全国図書館大会は、約1600人が参加して神戸で行われた。このような場で、埼玉県から2本の発表が行われたことを大変嬉しく思っている。

① 埼玉県立図書館における「サービス評価指標」の導入

[浦和図書館 豊崎主席司書主幹]

パワーポイントの画面とレジュメにより発表内容を報告

② 久喜図書館における「子ども読書支援センター」の活動

[久喜図書館 山成司書主幹]

レジュメと資料により発表内容を報告

【質疑】

委員：全国大会はどのようなスタイルで行われているのか。また、各分科会ではどのようなテーマが取り上げられているのか。

会長：社団法人日本図書館協会が主催し、年に1回、原則として各県持回りで開催し、今回が94回目である。おおむね2日間の日程で行われ、1日目が基調報告と記念講演、2日目が分科会というパターンが一般的である。

今回の兵庫大会では16の分科会が設定され、公共図書館や学校、大学・短大、専門図書館などの館種別の分科会のほか、児童サービスなどのテーマ別の分科会でそれぞれ研究協議が行われた。埼玉県では1981年に開催した。最近は、1県での単独開催が次第に困難になっている。

委員：2件の報告を聞き、非常に充実した内容だと感じた。評価指標を公表している図書館はあまり多くないと思うので、埼玉県立図書館で実施している意義は大きいと思う。子ども読書支援センターも、地道な活動で、よくぞここまでやっているなという感慨を持った。全国大会で発表した際、どんな反響があったか。

事務局：質問をいくつかもらったが、指標を公表している館がまだ少ないせいか、参考になったとの感想をいただいた。また改正図書館法に「活動を評価し公表するこ

と」が明記され、各館で取り組まざるを得ない状況となったので関心も高く、発表した方も勉強になった。

事務局：支援センターの関係では、「講座を1度受けただけで指導者なのか」という指摘があった。これには、埼玉では指導者というより経験を積んだ人が初心者に助言するという位置づけで、あくまでも基本を教えてくださいとお願いしており、派遣終了後も意見交換や課題解決のための集まりを持っている、と説明した。

また、次世代を育てるために大変有効な取組であるとの感想をいただいた。

委員：養成講座終了者への派遣要請はどの程度あったのか。

事務局：18・19年度2年間で、77団体・103講座に派遣し、のべ1652人が受講した。今年度も引き続き派遣要請が来ているが、今年は新たに児童館から問合せがあったので、先日各児童館へも案内文書を発送した。この派遣事業はまだ十分に知られていない面があるので、これからも広報に努めたい。

委員：各自治体で「子ども読書活動推進計画」を策定しているが、ともすると計画倒れに終わってしまう中で「子ども読書支援センター」の活動は優れていると思う。

支援センターについては、施設ではなく、そこで何をするのかという機能を具体的に考えた点が成功につながっているのではないかと。

ボランティアの人たちの熱心な活動に対して、このように問題提起をしながら、ことばの持つ力を大切に考えること、また理科離れが進む中で科学に関心を持たせることなどに配慮してもらえると良い。

最後に、実際に活動するのは市町村や各サークル、団体の人たちなので、その人たちへの支援を今後も是非お願いしたい。

委員：支援センターは、今後どのように活動していく予定なのか。

事務局：研修機会への需要が多いと改めて認識したので、当面は講座を継続する予定である。また、例えば10分間読書用に適した本のリストなどのような、ボランティアの人たちの活動に役に立つ資料などの作成・提供を行っていききたい。

現時点では、まだ明確な長期ビジョンは立てていないが、子ども読書に関するネットワークを広げるのが支援センターの目的と捉えている。現在、講座修了生が集まってネットワークを作っている事例が県北で二つある。今後は他地域にも増えていきそうだが、こうした輪を結びつけていきたいと思っている。さらに、ボランティアに限らず、学校や公共図書館などにもこのような輪を広げていけると良いと思っている。

委員：例えば幼稚園などの幼児教育の現場で、先生方の絵本や読み聞かせに対する関心・認識が薄いと感じている。その辺へのアプローチは考えられないか。

会長：私も学校の先生に対する啓発が必要だと感じている。市町村でも独自の取組を行う必要があるが、支援センターないしは県として何らかの取組が考えられないか。

事務局：県の「子ども読書活動推進計画」に基づく事業は、市町村図書館が元気に活動できるように、を主眼としている。先程来のお話のとおり、17年度から指導者の養成を行い、養成した指導者の話を聞いた相当数のボランティアが学校等の場で活躍している。この「計画」は5年を経過し、来年度に向けて改訂する時期にあ

るが、市町村図書館の活動状況や学校図書館での子ども読書への取組状況等を勘案しながら、県としてどのように関わるべきか、改訂作業の中で検討していきたい。

委員：講座を終了した「指導者」のフォローアップのための実践の場が必要だと思う。講座修了後の研鑽の場を考えて欲しい。

会長：経験の蓄積が必要とされる部分で、県立図書館の役割に期待するところが大きい。是非よろしく願いしたい。

委員：県民文化を発展させる観点から、今後も引き続き県立図書館を充実させていって欲しい。これから高齢化社会を迎えるに当たり、県民の読書傾向も変わってくるのが考えられる。先ほど子ども読書についての話があったが、高齢者への対応も考える必要があるのではないか。現在、高齢化社会に向けた「まちづくり」の勉強をしているが、公共施設の中でも図書館は重要な役割を担うものと期待している。

会長：確かに図書館は市民社会の動向とともに歩む施設だと思う。
予定の議事が終了したので、これで議長を解任させていただく。

6 閉 会

[熊谷図書館 渡辺教育主幹]